

いわき民報

所行發 社報民きわい (第一八三號) 地第一町市平 (第一八三號) 電話九百九十九番 已克輝千 人房印 除九日曜月但刊日 張五第部一 日五廿月六年一十二和昭

平市五丁目 釜屋商店 電話九百九十九番

いづれも政府食言

養蠶褒賞加配米一升が五合に 生産意欲の阻害に農業會憂慮

繭一貫匁に對し一升の褒賞米加配をみる事になつてゐるが、二回目には八合に又五月分からは五合に減じられたので、毎度のことながら業者は食言も甚しいと憤慨してゐる、農業會石城支部でも猫の目のやうに業者を喜ばせて置いての場句に變ること、生産意欲を阻害すると憂慮してゐる、従つて戦時中の昨年でも難維持としての養蠶剥皮は三万五千貫に達したるも拘らず本年は一萬五千貫の割當に對して二割の供出も難しい程業者の意欲は失はれてゐるとある

事業停止

事實上の解散

九月以降保険料拂戻し

小名濱町國民健康保險組合ではの事業停止に伴ひ職員處置案終戦を轉機に一部からは解散等左の如くに決定されたがこれに對するに、殊に本年に於ては同町の健康も二年有半入つてからは保険料の納入成績の短い生命で事實上解散同様の運命となつた

大道異變

▽煙草が値上げになるといふ。存外、驚く者も少いであらう。何もかも高くなつてゐるから、二倍位になつても大して響かない。▽但し響かないのも種々ある。理性的に「當り前だ」。『煙草をやめて増産だ』。『節儉して難局打開だ』。と考へて蓄々實生活に具現するのは健全

出鱈目とは奇怪

大内氏の談話を添へて 調査委員會本紙へ抗議

六月十九日附本紙一面「大内証人出鱈目を聞く」の見出しで掲載された大内近雄氏の談話に對し、市會調査委員會が市會附託の調査委員會の報告が出鱈目であるといふのは奇怪なり」と大内氏を訪ね、その眞實を確めた處、本紙の記事が大内氏の談話を描き違へたものであると委員會から大内氏の談話を添へ本紙に對し誤謬訂正方を申込んで来た、以下は調査委員會に對する大内氏の談話である

あの決議案は常備消防の責任外にある第二分團のガソリンポンプに充てられなかつたものでこれを以て常備消防の責任を過重と稱することは間違ひである、委員の報告書は理由で妥當でないといふてゐるのだから出鱈目でも何んでもない

自分が出鱈目といふたのは、あの問題が市會より委員會に移つてゐる際、市會にも委員も練習不足ながらよく奮闘、復初の記録としては案外に良好であつた

「湯水、二大木正男(平商O.B.) 3高崎剛(P.O.M.) 四百米/一分〇四秒六木春和夫(警中) 一分〇四秒六木春和夫(警中) 2植松力雄(常警) 3鈴木正己(警中) 〇千五百米/四分五五秒水野谷(警中) 2寒河江義夫(常警製作) 〇新妻(平商O.B.) 〇五千米二〇分二七秒カバリーを寄贈し湯水町役場から

全石城陸上競技大會 練習不足の割に好記録續出

寒河江義夫(常警製作) 〇佐久間章(赤井) 〇三貝安男(赤井) 〇八百米リレー/一分五〇秒 P.O.M.俱樂部 2平商O.B. 3小田チム 〇走幅跳/五米六九 山家博孝(平商O.B.) 〇常澤敏雄(湯水) 〇鈴木英一(P.O.M.) 〇走高跳/一米六七高崎剛(P.O.M.) 〇杉山秀雄(平) 〇三山廣喜(平) 〇砲丸投/一米五〇山家博孝(平商O.B.) 〇瀧口(常警製作) 〇高崎剛(P.O.M.)

感謝的 湯水町表町不二工業 二工業東北出張所では湯水國民學校學兒にスツカカバリーを寄贈し湯水町役場から

製材木羽屋根葺工事請負 織田木羽板平工場 織田時松 平市材木町一三電話六八番

金融課長來平 仙臺財務局金融課長外二名は二十六日來平、二十七日、八日の兩日に亘り平市の財政状態を詳細に調査することに決定した、右は市から第一國民校新築費四百五十八万圓及び平陽女學校の買収十八萬八千圓等々、總額五百萬圓に達する起債認可を申請してゐるためのものである

珠算能力檢定 商工經濟會平支部主催の第三回珠算能力檢定試験は二十三日平商業校で實施した、参加者は一級六名、二級五名、三級五十七名の計六十八名なつたが、成績の發表は七月中旬とある

四倉の水道 時間給水で 廿一日の雨で救はる 水不足から四倉町の上水道は斷水の憂をみてゐるが、二十一日大雨で救はれ二十三日から火災非常用水を残して當分時間給水を行ふことに決定した、尚同日の降雨量は三十一ミリ程度だつたが向六、七ミリの雨が硝子等を破損した、農業休暇中あれば平常通り通水し得るとある

四倉の落雷 國民校の講堂へ 四倉町國民學校講堂へ二十一日四時半頃落雷、屋根二坪余と窓硝子等を破損した、農業休暇中のため他に被害はなかつた

言寸きわい 繭一貫匁に對し褒賞として米一升加配が、八合に減じ遂に最後は何と半分の五合に引下げ、又政府食言、業者の生産意欲を阻害する

スピード籤 廿六日に五千本 これで當分休止 二回で百圓の夢をのせたスピード籤は去る十六日に一萬五千本に二回賣出されたが、兩回とも斷つ間に賣切れとなつた、勸銀支店には残籤が僅か五千本残るのみなので、第三回として二十日午後三時半から三丁目の全行焼跡で賣出すことに決定した、この賣出し後は當分休止とあるので當日は一層賑ふものとみられてゐる

女人王國福島の御多分に洩れず當平市内の男女別も男一萬三千七百五十人、女子一萬五千六百九十七人の割合で女子の優勢を示してゐるが、二十万の結婚難を計算されてゐる現在、女の生きる道は……、女性は何處へ行く……、戦時男子の代用品として各職場に採用されてゐた女性の地位も男女同權の理想とは反對に復員者や引揚者の内地歸還と共に必然的に女性の就職を附め出してゐる、

この頃の乙女のゆく道は 又何處も全じ 新園の

缺乏と食糧難の各家庭生活の憂鬱は若い娘達を何處へもつて行くか、斯くて職場から家庭から街頭に氾濫する若き女性の行く道は、刷け口は……市内の映画館、十数ヶ所の洋裁學校には之等若い人達で満員の盛況であるが、果して其處は若い女性達に取つて安全な愁ひの場所であらうか、一日記者は勤勞署、映画館、洋裁學校に若き女性の姿を探つて見た

働く意欲の缺如か

平勤勞署の窓口から見る

五月中の女子求人數百三十二人の就職數は二百三十八人内職工業關係二百三十二人、商業、公務自由業、其他六人で求人數に比して就職數の多いのは各月來つて就職決定したものの數字が加ははつてゐる爲であるが六月以降はやはり五月前と同様女子の求人、就職は依然として狭いものと豫想される、失業人員二千名と推定されるのにこの様な就職率の數字は、働く意欲がないとも見られるし又何等か若い人達の求め場所があるのではなからうか

と進んでゐる様です、そして解放された氣持は窮乏な學校や會社務めを避け抑へられた若い氣持の刷け口を、身だしなみでもあり、家庭生活への道具の一つでもあり、文化人としての生活意欲の表裏?とも云へる洋裁に身を投げこんで来たのではないでせうか、その現はれとも見られる一つは最も新聞生活の影響もありますが私のところでは二百名程の中、通學者が九割を占めその大部分が農家と漁業家の子女です、そして職業として立つための入校者は數へる程

お嫁入りの御仕度か

九割迄が農漁村 市内の娘は少い

某洋裁學校では次のやうに數が限定されたので或る程度社交場的な利用場所と云ふか慰めは或る限度に抑へられつつありますが學生と若い男女が驚てゐましたが戦時が男女同權の程で九十%を占めてます特に自由平等の思想をもちたらし女の人は同様のものを二回も三回た爲に若い人達は一度にどうも觀る人が多く目に付きまた又と自由の世界、文化への突入アベツの多い事も特徴の一つで協議會を開いた

憩ひの場所として

娘さんご切り離せぬ映画館

戦時中は映寫時間が制限され回でせう、若い人達のある意味の社交場的な利用場所と云ふか慰めは或る限度に抑へられつつありますが學生と若い男女が驚てゐました。戦時中から生れつゝあつたであらう新人とのつながりをあつとんと断ち切つてしまつたのである。闇黒で空虚な數年であつた。

然し思ふは去つた。私達はこゝの混沌と孤獨から一刻も早く立ち上らねばならぬと思ふ。そ

配給業者へ

要望批判結構 紙上匿名可

過日私は友人の奥さんに斯う云ふ事をきかれた「貴方はお酒呑みだから御存知と思ふが酒類を計る辨に三合といふのがありませぬか、實は先日の三合配給の時市内中央の配給所一つは給の辨で盛りきり一杯計つて寄つた、歸つて徳利に入れて見る合、一升辨があるが三合と云ふ代には四合の配給をビル壘一を再認識してそんな目で見られ本正味三合五勺程度で計量販賣の様善處して欲しいお互が生きて居て居る問題になつた明らかな抜くために(高階哲夫)

石城歌話會の提唱

佐川和弘

過日ひよつこりと白木英尾君先づ石城に在る全歌人(新舊經來訪されて四方山の懷舊談に歴を問はず現在作歌の有無を問はす)の懇話會といつたものを快い一時を過したのだつたが、その際一度石城歌人の集りを持てるべきならば石城歌壇の再興はかりたいといふやうな事と意味で歌を作つたりお話をしなすか、語り合はされた事だつた。雑詩詩南車から野麥時代にかけて石城歌壇は實に絢爛盛を極めた。そしてその時代の私達も興もはかりたいといふやうな事と意味で歌を作つたりお話をしなすか、語り合はされた事だつた。

富士勢組句會

鈴木紅葉選

夏 秀作 嘉の子
夏山の裾に眞白き花を摘む
夏を背にして村の分敷場
千鐘寺ふところにして夏の山
【評】「夏山のふところ深く千鐘寺」

蚊張

秀作 古 江

病める子を蚊張の外にて見舞ひけり
蚊張の中に入りける子のすや
蚊張透し姉の姿の美はしく
母衣蚊張の目醒し音子へ四つん這ひ
蚊張ぬちに螢はなして寝る夜かな
子守唄上手ではなし蚊張の中

霧吹いて庭の木に吊る

佳作 嘉乃子

このまゝの句である而し何か感じさせ且活動してゐるものがある全く静かである句でゐる賑やかなの覺える句

【評】「霧吹いて庭の木に吊る」
このまゝの句である而し何か感じさせ且活動してゐるものがある全く静かである句でゐる賑やかなの覺える句

【評】「霧吹いて庭の木に吊る」
このまゝの句である而し何か感じさせ且活動してゐるものがある全く静かである句でゐる賑やかなの覺える句

佐藤鐵工所 電話三六二番 平市四丁目ルネビル

佐藤鐵工販賣部 電話二四四番

◆營業品目◆
金物類、電氣器具、木工品、竹細工製品、一般家庭用品